

【日時】2019年5月23日(木)～25日(土)
【場所】かがわ国際会議場 (<http://www.symboltower.com/hall/>)
【テーマ】「Protecting and Developing the Brain」
【参加費】350€ (約45000円) 【募集人数】約250名

IPOKRATESセミナーがついに日本初開催決定!!

IPOKRATES セミナーとは

人種、宗教、政治的な思想を超えて若手医師・研究者が新生児・小児科領域の専門分野のエキスパートらを通して科学的知識交換を行うことのできる国際教育セミナーです。世界各地でテーマを変えて開催されています。

世界各地から超一流の講師 10人が高松に集結!

このIPOKRATESセミナーがついに日本で初開催され世界的に著名な教授、臨床研究者ら10名を講師陣として迎え、3日間にわたり世界トップレベルのレクチャーを行っていただきます。本セミナーにはアジアを中心に世界各地から若手新生児科医、研究者の参加が見込まれており、国際的な仲間作りが可能です。

参加予定講師



Hypothermia therapy for neonate

Prof. Alistair Gunn

Department of Physiology,
University of Auckland, New Zealand

「新生児低体温療法の生みの親」新生児低酸素性虚血性脳症の標準治療として普及している低体温療法の有効性及び開始基準時間(生後6時間以内)、治療期間について胎児羊を用いた動物実験によって世界で初めて証明した。近年では、低体温療法期間の延長や早産児への適応拡大に対して動物実験による検証を進めている。



Neuroimaging and neuroprotection in developing brain

Prof. Nicola J Robertson
Institute for Women's Health,
University College of London

新生児の脳保護及び脳モニタリングに関する研究を行ってきた。特に、低酸素性虚血性脳症における低体温療法の脳保護作用メカニズムの解明、新規脳保護治療(Xeガス、メラトニンなど)の開発を動物実験及び臨床研究を行っている。



Monitoring Cerebral Oxygenation in the Preterm Neonate

Prof. Frank van Bel
Department of Neonatology,
University Medical Centre
Wihelmina Children's Hospital, Netherland

新生児における近赤外分光装置(NIRS)を用いた脳循環酸素代謝モニタリング法を提唱し、新生児における非侵襲且つ持続可能な脳機能モニタリングの開発に大きく貢献した。また、新生児仮死における脳保護療法の研究開発も進め、現在進行中の2つの臨床試験、新生児仮死に対する「アロプリノール療法」、「幹細胞療法」を主導する主要メンバーの1人でもある。



Caffeine and Oxygen Saturation Monitoring Targets

Prof. Barbara Schmidt
Pediatrics and Senior Scholar in the Center
for Clinical Epidemiology and Biostatistics at the
University of Pennsylvania School of Medicine

2,000人以上の極低出生体重児を対象にした無呼吸発作に対するカフェイン投与の大規模RCTを主導。その有効性及び神経学的後遺症の安全性について報告、カフェイン療法確立に大きく貢献した。早産児無呼吸発作へのカフェイン療法の先駆者。



EPO for neonatal neuroprotection

Prof. Sandra E. Juul
Department of Pediatrics,
University of Washington, Seattle

エリスロポエチン(EPO)の脳保護作用に関する基礎的研究を行い、臨床研究も数多く行う新生児における脳保護EPO療法のパイオニア的存在。現在、超低出生体重児に対する脳保護EPO療法の大規模多施設共同研究を進行中。



Nutrition and the Developing Brain

Prof. Michael K. Georgieff,
Department of Pediatrics,
University of Minnesota Masonic Children's Hospital

胎児・新生児期における栄養と脳発達に関する研究に従事。発達初期段階での鉄摂取と神経認知機能について研究を行っている。200本以上の論文を執筆している新生児栄養学のリーダー。



Fetal Cerebral Hemodynamic Response for Somatosensory Stimulation

Dr. Flora Wong
Monash Newborn,
Monash Medical Centre, Melbourne, Australia

オーストラリアにおける早産児に対するNIRSを使った脳循環酸素代謝モニタリング研究の第一人者。胎児羊を用いて、胎児期から新生児期における大脳皮質感覚野における神経血管反応の発達の発現変化の解明にむけて研究を行っている。



Brain Imaging and Physiologic Monitoring

Dr. Hannah Glass
Department of Neurology,
University of California San Francisco, USA

周産期脳障害(低酸素性虚血性脳症、脳梗塞、痙攣、早産児脳障害など)の画像診断及びフォローアップを研究。特に、早産児における予後不良な新生児けいれん発症メカニズムについてMIR画像解析を進めている。



Transfusion for premature infants

Prof. Haresh Kirpalani
Department of Pediatrics,
Children's Hospital of Philadelphia

輸血療法が早産児における神経学的予後に影響する事を提唱し、超低出生体重児における輸血療法開始基準となるヘモグロビン値設定のために、これまでに多くのRCTを行っている。近年、輸血療法開始基準ヘモグロビン値と超低出生体重児の長期予後及び神経学的予後の関連について研究を進めている。



Microbiome and the brain

Prof. Josef Neu
Department of Pediatrics,
Division of Neonatology, University of Florida

早産児における消化管発達に関し、動物を用いた基礎研究から臨床研究を主導。特に消化管における細菌叢形成と糖代謝関連疾患(糖尿病、肥満など)の関連について研究を行っている。